

国語問題

(二〇枚のうち一枚め)

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は、句読点や記号も一字に数えて解答すること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の関係上掲載しておりません

著作権の関係上掲載
しておりません

(平賀 緑「食べものから学ぶ現代社会」による)

- 注(1) 農協…農業協同組合。農業者同士が、生産力の増進や経済的地位の向上のために協力しあう組織。
注(2) コスト…商品やサービスを提供する際に発生する費用、時間、労力。
注(3) スキル…訓練や学習によって習得された、特定の行動や作業を行うための能力。

問一 線部①・②のカタカナを漢字に直し、③の読みを答えなさい。

問二 本文中の 1 ・ 2 に入れるのに適 葉を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 例えば イ つまり ウ または エ そして

問三 ある生徒が、この文章で「家庭菜園」と「農業」の違いを述べている箇所について整理し、次のような【表】にまとめました。後の各問いに答えなさい。

	家庭菜園での野菜作り	農業での野菜作り
目的	A ために育てる	B ために育てる
育て方	C	限られた種類の作物を一斉に大量に栽培する
価値	D 価値を重視する	「商品」としての交換価値を重視する

(Ⅰ) A ・ B に入れるのに適当な表現を本文中から探し、十字以内で抜き出して答えなさい。

(Ⅱ) C に入れるのに適当な表現を答えなさい。

(Ⅲ) D に入れるのに適当な二字の言葉を本文中から探し、抜き出して答えなさい。

問四 線部(1)とありますが、農家が「単一栽培」を行うのはなぜですか。あてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一つの品種にしたほうが、栽培するときに土壌の性質や温度などを管理しやすいから。
イ 一つの品種にしたほうが、一度にたくさん収穫して運べるため輸送費が安くて済むから。
ウ 一つの品種にしたほうが、気象条件に左右されず見た目の豪華な良いものが作れるから。
エ 一つの品種にしたほうが、出荷のための梱包作業が単純化できて手間が省けるから。

問五——線部(2)とありますが、「聖護院だいこん」のようなブランド野菜が京都府で推奨されるのはなぜですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 人々の食を確保するために「強い農業」を維持しよう、という政策を国が押し付けているから。
 イ 交換価値の高い売れる商品を作ることが、京都の農業の維持発展のために大事なことから。
 ウ 他の都道府県よりも独自性を出して優位に立つことが、観光地としての京都をアピールすることになるから。
 エ おなじ京都府の住民に食べてもらって満足してもらうことが、住民の地元愛につながるから。

問六——線部 A・B は本文で中心となる筆者の考えです。筆者がどのように考えるのはなぜですか。そのことについて話し合っている生徒の発言の 1 3 に入れるのに適当な表現を答えなさい。ただし、

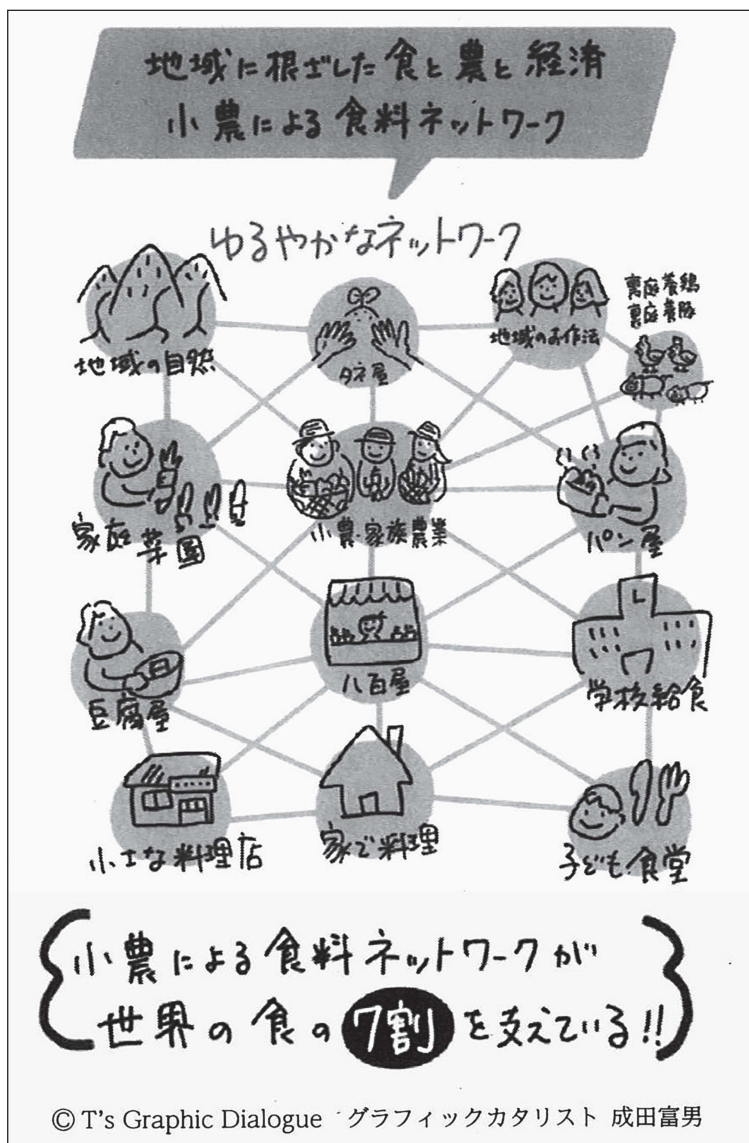
- 1 は本文中から二十五字以内で探し、最初と最後の三字を抜き出して答えなさい。ただし、四字で探し、抜き出して答えなさい。 3 は自分で考えて四字熟語を答えなさい。 2 は本文中から

生徒 A まず、本文の内容を整理しよう。経営的な観点からみると、農家の人にとってはできるだけ高く売れる商品がいいから、「聖護院だいこん」みたいなブランド野菜を生産しようとするよね。

生徒 B でもそのだいこんは1個1000円もするから、 1 ということになるね。つまり、「聖護院だいこん」は地元の人に向けた日常的な商品じゃないっていうわけだ。

生徒 C 世の中の農業が経済を重視して 2 を追求しブランド野菜ばかりを作っていたら、値段が高くて買えないし、空腹を満たせない人が出てしまう。その一方で、消費者が見た目の良いものを買おうとするから、せっかく作ったのに、 2 の低いものが誰にも食べられず廃棄されるという食品ロスの問題もあるね。それが「農業や経済の発展が、必ずしもみんなの幸せにつながっていない」ということなのかな。

生徒 D 私はこの本文とは別の箇所、筆者がこんな資料(左図)を使って意見を述べているのを見つけました。この資料にあるように、地域の社会や自然を大切にする食料のゆるやかなネットワークを実践していくことが、食料をうまく循環させ「誰一人取り残さない幸せ」をつくることにつながっていくのではないかと思いました。この資料の考え方は社会の授業で習った 3 という考え方ですね。



二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学二年生の美雨は、一年前に母親の再婚を機に岡山から京都へ引っ越してきた。再婚相手の塚本さんには、美雨より一つ年上の大也という息子がいる。美雨は家になじめず気を遣う毎日、街をあちこち歩いているうちに、古道具を売っている「梶木」という骨董屋を見つけた。店の出窓に飾られた茶碗には壊れたところがあり、金でつなぐ「金繕い」という手法で修復されているのを目にした美雨は、その美しさや存在感に心ひかれた。以来、たびたび通って眺めるうちに店主と知り合いになり、茶碗の名前が「月光」だと教えられた。

食卓の雰囲気はいつもにも増してサイアクだった。ぴりぴりする母親に塚本さんはやたら気をつかって、つまらないじゃれを飛ばしてはすべっていた。見ていられなかった。針の筵はりわたってこんなことをいうのかな。美雨はばさばさしたカレーのチキンを無言で咀嚼注①そしゃくした。

「サツカーのな、強豪校なんや。地方から大勢選手を集めとつて、全員寮生活りようらしい。そやけどすごい競争率で、受かるかどうかはわからんて先生はゆうとつた」

意を決したように塚本さんが話を蒸しかえしたときも、台ふきんでテーブルをなでまわすばかりの母親は口をきかなかった。

「大也な、ああ見えてなかなかうまいらしいわ」

うっかりといった感じで、塚本さんの顔が 。そこに深い情愛を感じて、美雨の胸がちくりとイタんだ。美雨は父親の顔を知らない。

「……そりゃあ」

長いこと黙りこんでいた母親が、かすれた声を出した。あわてて塚本さんが表情を引きしめるのがわかった。

「思春期の子を持つ者同士の再婚がむずかしいことくらい、わたしだってわかってたけど……」

硬い声で母親は続ける。

「だからわたしなりに努力してるつもりよ。……なのに突然、全寮制の高校へ行きますなんていわれたら、まるでわたしが追い出したみたいじゃない」

「だからあ！」

噛み合わない会話にさすがに塚本さんはいら立っている。

「大也はそんなことゆうてないって！ 毎日泥だらけのユニフォーム洗でもろて、試合のたんび弁当つくってもらて、口べたやし上手によういわんけど、あいつなりに心の中では感謝しとるんやって！」

胸がつまったのか、塚本さんの語尾が震えた。気を静めようと伸ばした手がすべって、湯飲みにあたった。

ガチャン！

床に落ちた湯飲みは大きな音を立てて割れた。

「あー」

床にはいつくばった母親が、割れてしまった湯飲みのかけらを手に悲しそうにつぶやいた。

「せっかくおそろいで買ったのに……」

それを耳にしたとたん、美雨のまぶたがふくらんだ。

ポトツ。

しみだらけのテーブルにまた新しいしみがついた。

ハッとしたように母親が顔を上げた。

「……美雨」

テーブルのむかい側の塚本さんの顔がゆがんだ。

「美雨ちゃん」

「ごめんなさい！」

大きな音を立てて、美雨は椅子から立ち上がった。席を立ててごめんなさいなのか、涙をこぼしてごめんなさいなのか、あたしのせいでごめんなさいなのか、そのいずれでもないのか、それともいずれでもあるのか、自分でもさっぱりわからなかった。ただただ、身の置きどころに困って、そのまま玄関から家を飛び出していた。

「美雨！」

「美雨ちゃん！」

閉まりかけたドアのむこうから母親と塚本さんの声が追いかけてきた。

自分の存在自体がごめんなさいの気がする。涙が止まらない。このまま消えてしまいたかった。美雨は雲の上を歩いているようにふわふわした足取りで、あてどなく歩を進めた。

いつのまにか、骨董屋の店先に立っていた。格子戸にはカーテンが引かれ、店は閉まっていた。街灯の薄明かりのもと、飾り窓の中では「月光」が静かに鎮座していた。

「月光」

つい声に出してヨびかけていた。

「あんたはいいね。いつも静かで。……人間はややこしすぎるよ」

「月光」はこたえない。あたりまえだ、茶碗だもの。だがそう思ったとたん、「月光」の月がピカリと光った。

「え？」

驚いてふりかえると、ちょうどライトをつけた自転車が美雨の背後を走りぬけるところだった。

——ああ、びっくりした。

何百年ものあいだ、多くの人に愛され、手から手へと伝えられてきたという「月光」。どれだけの人の嘆きやため息を、そのざらりとした地肌に吸い取ってきたことだろう。それがそのまま「月光」の存在感となり、なんともいえないオーラをまとって、今ここにある。

——すごいねえ、月光。

あらためて美雨は、「月光」に対する尊敬心がふつふつとわき上がってくるのを感じた。「月光」だって、いったんは欠けた身だ。捨てられる危機に瀕したことだってあったかもしれない。身をよじるような屈辱も。それが、誰かの手によって美しく金繕いをほどこされ、新たな命をふきこまれて、長い年月多くの人の心を癒してきた。それってすごいことだ。

モノに癒される。そういうことがあるのを美雨は身をもって実感した。だけど、フツウの茶碗にそんなことができるとは思えない。「月光」は特別だ。じゃあその違いはなんだろう。芸術性？ 人の想い？ 歴史？ いくら考えてもわからなかった。(中略)

「月光」を前にあれこれ想像をめぐらせているうちに、美雨はいつのまにかふわふわ浮いているようだった自分の足が地面にしっかりとついているのを感じた。

そして足もとに目をやってようやく気がついた。あれ？ 右と左、違うはきものはいてる。右は母親の赤いサンダルで、左は男物のサンダル。どうりで歩きにくかったわけだ。なんだかおかしくなってクスリと笑った。その瞬間、こわばっていた体から力がぬけた。

——帰ろう……。

美雨は、すっかり高くなった本物の月明かりの下、左右違うはきものをつつかけた足を家の方角にむかってふみ出した。かくかくして、ものすごく歩き心地が悪かった。

③ 路地を入ったところで、自転車の大也とぶつかりそうになった。

「帰ったでー」

大也の大声に玄関から飛び出してきた母親が、
「美雨！」

と指が食いこむほどきつく美雨の両腕をつかんだ。

「心配させて、もうー！」

泣きべそをかきながら地団太をふんだ。

「あつ、今、帰ってきましたわ。すみません。おさがせしました。はい、はい。つい心配してしもて。すみません、すみません」

玄関で、携帯電話片手の塚本さんがぺこぺこ頭を下げていた。どうやら相手は警察らしい。体から血の気が引いた。

—— こんな大さわぎになってたなんて……。

美雨の全身から冷たい汗がふき出した。

「あー、助かったあ」

塚本さんは携帯をにぎりしめて上がり框に座りこんだ。塚本家では、塚本さんだけいまだにガラケーなのだ。

「一一〇番すんの、生まれてはじめてや。見てんか、この手汗」

そこか？ というようなことをいって、塚本さんは美雨の前で両手を広げて見せた。びっしりと汗のつぶが浮いていた。

「……ごめんなさい」

美雨はつぶやいた。ごめんなさいの理由は、今度ははつきりしていた。⁽⁴⁾ 心配かけてごめんなさいだ。素直にそう思った。

「おまえ、はきもん」

美雨の頭越しに大也が足もとを指さした。

「あつらまあ」

すっとんきような大声を上げた母親が、

「ばっかみたい。はっはっはっは」

はじかれたように笑い出した。

「ほんまや。ようそれで歩けたもんや。こんな長いこと」

塚本さんは感心したようにいった。恥ずかしさに美雨は耳まで赤くなる。

見上げると、大也まで笑っていた。よっぱどあちこち走りまわったのか、おでこに汗のつぶがびっしり浮いていた。においもきつい。いつもは毛ざらいしているそのにおいが、今はそんなにいやではなかった。部活で疲れてるはずなのに、心配してさがしまわってくれた。そのやさしさが身にしてみた。

—— 大也ってこんな顔して笑うんだ。

ついまじまじと見つめてしまった。ほつぺたの深いえくぼが、笑っちゃうほど塚本さんにそっくりだった。

(八束澄子「ぼくたちはまだ出逢っていない」による)

注(1) 咀嚼…口の中で食べ物をかみ砕くこと。

注(2) 上がり框…玄関などの上がり口。

注(3) ガラケー…スマートフォンが普及する前に主流だった、通話やメール機能を中心とした携帯電話。

問一 線部①・②のカタカナを漢字に直し、③の漢字の読みを答えなさい。

問二 本文中の□に入れるのに最も適当な表現を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 赤くなった

イ くもった

ウ ほころんだ

エ 引きつった

国 語 問 題

(一〇枚のうちの七枚め)

問三 ——— 線部(1)とありますが、なぜ「母親」は「ぴりぴり」しているのですか。この後の内容を読んで答えなさい。

問四 ——— 線部(2)と同じような意味の表現を本文中から探し、解答欄の形式に従って十一字で抜き出して答えなさい。

いる様子。

問五 ——— 線部(3)とありますが、美雨が「月光」のどんなところに「尊敬心」を感じているのかをまとめた次の文

の 1 2 3 に入れるのに適当な表現を、それぞれ答えなさい。ただし、 1 は二十字以内で答えなさい。

長い間受け継がれ、 1 ことでもしだされる存在感や、人間のややこしさと別次元の静けさや、欠けて捨てられる危機を乗り越え、美しい金繕いによって新たな命をふきこまれて長年 2 きた、普通の茶碗にはない 3 な魅力。

問六 ——— 線部 A・B とありますが、この二つの場面での美雨の変化の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A 家族に自分の思いがうまく伝えられずいたたまれなくなって家を飛び出したものの、どうしていいか何も考えられないで行くあてもなくさまよっていたが、悠然とした「月光」を眺めるうちに気持ちが切り替わり、家族に自分の思いをぶつけて戦う覚悟ができた。

I わかりあうことができず一つの家族にならないという現実に苦しくなって家を飛び出し、自分の存在に心細さがかえてさまよっていたが、人間のしがらみを超越したような「月光」を眺めるうちに気持ちが落ち着き、再び現実と向き合う気力が出てきた。

U 自分を無視して繰り返しられる夫婦の言い争いに、自分の存在が否定されたようで投げやりな気持ちになって家を飛び出し、心のよりどころがないままにさまよっていたが、「月光」のオーラに圧倒されて、つまらないことで心を乱していたと気づいた。

E 自分がいるのにお構いなく夫婦で言い争うのが許せず興奮状態になって家を飛び出したものの、行くあてもないのでぼんやりとさまよっていたが、「月光」の静かなたたずまいに自分の心も静まり、短気な自分が悪かったと反省する気持ちになった。

問七 ——— 線部(4)とありますが、美雨はなぜ「素直にそう思った」のですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A 自分が家を飛び出したことで母親をひどく心配させたうえに、警察に連絡する大さわぎになっていて動揺したが、自分を責めず穏やかに軽口ですませる塚本さんに温かさを感じて、自分が悪かったと強く自覚したから。

I 自分が家を飛び出したことで家族が警察を巻き込む大さわぎをして探してくれたことを知り、おおごちになったとあせると同時に、これまで悪いことをしてもあやまれず意地を張っていた自分がおろかに思えたから。U 自分が家を飛び出したことで母親や塚本さんにひどく心配をかけてしまったのに、自分のほうは心配されていることすら想像できていなかったの、自分はまだ子供で世話をされる弱い立場だと強く感じたから。

E 自分が家を飛び出したことで母親をひどく心配させたばかりか、警察にも迷惑をかけてしまい事の重大さに怖くなったが、塚本さんは心配もせずいつものように冗談をいうので、拍子抜けしてしまったから。

問八 本文を読んで表現や内容について生徒が話し合いました。次の発言のうち、読み取りに誤りを含むものを一つ選び、1～5の数字で答えなさい。

生徒1 塚本さんが、妻や義理の娘の美雨にとても気を遣っている様子がよく伝わってきました。大也がサッカーがうまいと語ったときには息子への愛情も表れていました。思いやりがある人物だと思います。

生徒2 そうですね。塚本さんが大也の話をしたそのときに、実の父親の顔を知らない主人公の美雨が「ちくりと胸がいたんだ」と書いてあるんだけど、本文の最後では、塚本さんに心配してもらって少し距離が近づいたんじゃないかって思いました。まだ「塚本さん」とよんでいるけれど、だんだんとお父さんの存在になつていくんじゃないかと思います。

生徒3 私は「左右違いのはきもの」が効果的に用いられていると思います。美雨がそれだけ無我夢中で家を飛び出したことがよく想像できます。また、最後の場面は深刻なはずの場面ですが、美雨のはきもののことでみんなが笑っていて、私もほっとしました。雨降って地固まるっていいいますが、お互いの気持ち近づいている感じがよくでていると思います。

生徒4 大也と美雨は仲が良くなくていがみ合っていたけれど、今回の件で大也に心配してもらって美雨の反発心が和らいだことが、最後の場面からわかりました。

生徒5 「月光」という茶碗が印象的に描かれていると思います。芸術作品に触れて心がしんとする感じは理解できます。美雨が「月光」と向き合ううちに落ち着いて、冷静に自分をとらえられるようになったところがこの話に深みをあたえていると感じました。

Ⅲ (I) 小学生の妹尾弘美さんが、はがきの書き方を授業で習い、親戚のおじさんにあててはがきを書いています。次の文面を読んで、各問いに答えなさい。

拝啓

風が冷たく感じられるようになってきましたが、お元気ですか。

先日は有気栽培のミカンをたくさんお送りくださり、ありがとうございました。

① お母さんはミカンに ② ので、今年もおじさんのところから届くのを楽しみに待っていました。さっそく家族みんなで召し上がりました。私も味がすごいと思いました。③ 今度の休みにお土産を持って、そちらに遊びにうかがいます。収穫のお手伝いもぜひさせてください。

これから寒くなりますが、お体を大切にしてください。

敬具

十一月十五日

妹尾 弘美

三島 次郎 様

問一 ——— 線部①・②の敬語表現をふさわしい表現に改めなさい。

問二 ——— 線部③を内容が正しく伝わるように、自分で考えて表現を改めなさい。

問三 文面の に入れるのに最も適当な表現を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 鼻がきく イ 胸がさわぐ ウ のどから手が出る エ 目がない

問四 文面には漢字の誤りが一か所あります。該当する漢字一字を抜き出して、正しく改めなさい。

国 語 問 題

(一〇枚のうちの九枚め)

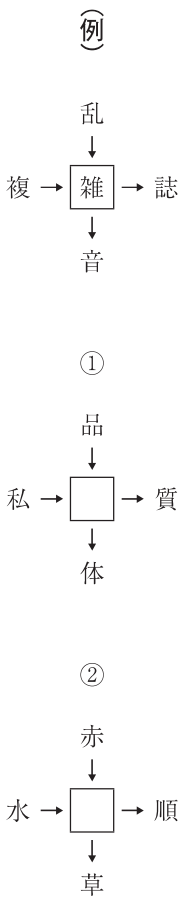
(Ⅱ) 次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の に入れるのに適当なことわざを、後の語群からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① プロの君がそんな失敗をするとは思わなかったな。 だね。
- ② うちのチームは優勝候補だが、彼女が^{かのじょ}入ってくれたら だね。
- ③ 荷物が多くてどうしようかと思ったが、彼が^{かれ}ついでに運んでくれるそうだ。 だね。

ア 馬の耳に念仏	イ えびでたいを釣 ^つ る	ウ 渡 ^{わた} りに船	エ 弘 ^{こう} 法 ^{ぼう} も筆の誤り
オ 急 ^{いそ} がば回れ	カ 鬼 ^{おに} に金棒	キ 豚 ^{ぶた} に真珠 ^{しんじゆ}	

問二 例にならって次の にそれぞれ適当な漢字一字を入れて、タテヨコの熟語を完成させなさい。





(10 枚のうちの 10 枚め)

↓ここにシールを貼ってください↓



問一	問二	問三
①		
(んだ)		
②		
(び)		
③		

[illegible]

Ⅱ		Ⅰ				
問二	問一	問四	問三	問二	問一	
①	①	誤			②	①
②	②	正				
	③					

[illegible]

の
続
き